



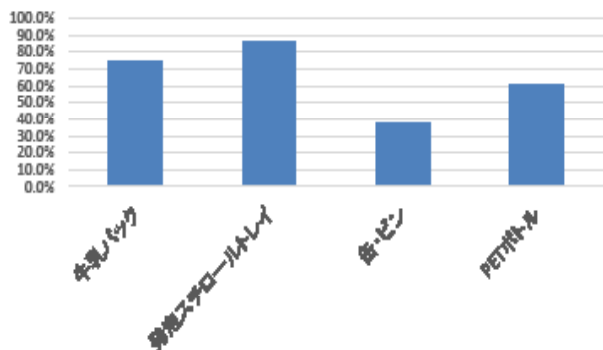
店頭回収は、製造者や販売者にとって確実な自主回収システムです。お店にとっても、お客が買い物ついでに購入した商品の容器を店頭に戻すというお客のリピートにつながるメリットがあります。消費者の立場では、行政の回収に出すよりも、自分で店頭回収に持ち込むことでリサイクルに協力しているという満足感を味わえます。こうしたことが店頭回収の拡大につながっていくのではないかと思います。

またリサイクルコストについては、食品トレイやペットボトルメーカーの努力によってコスト、品質とも採算の合う、環境に配慮した循環経済状態が構築されつつあります。コスト負担の大きい運送費も、納品の帰りが回収し、物流センターの中にあるリサイクルセンターへ持ち込むことで運送費を削減し、CO₂削減にも役立っています。発生量の少ないコンビニなどでは、地区割をして異なる店舗でも一括回収をする「ルート回収」をすることで大幅なコストダウンとCO₂削減が見込めます。

消費者にとって、店頭回収の最大のメリットは、税金による廃棄物処理の費用負担がなくなることです。自治体の負担もゼロではなく、別に支援などの形では発生しますが、直接的なものはなくなります。

● 店頭回収の実施率・店頭回収量

スーパーマーケット業界団体の調査によると、店頭回収の実施率は「食品トレイ」が86.2%、「牛乳パック」74.3%、「ペットボトル」60.6%、「空き缶、ガラスびん」37.1%、「ダンボール・古紙」37.2%、実施せず9.9%となっています。(回答数 276 社)



2020年スーパーマーケット年次統計調査 報告書より

回収量は、日本チェーンストア協会が環境問題の取り組みの中で毎年発表しているデータによると、ペットボトルが一番多く2019年度は17,677トンでした。

	店頭回収量(トン)
牛乳パック	6,108
発泡スチロールトレイ	4,687
アルミ缶	4,445
スチール缶	684
ガラスびん	479
PETボトル	17,677
合計	34,080

日本チェーンストア協会HPより

● 店頭回収が有効な販売業者の業態

家庭に持ち込まれる容器プラスチックの大半は食品が入っていたものです。次ページ図1は2019年度の食材購入先を現したものです。

上位の食材購入先は…

- ① 近所のスーパー：91.3%
- ② 大型のショッピングセンター：35.2%
- ③ ドラッグストア：28.8%
- ④ コンビニ：21.2%

この4業種での店頭回収をすれば効率がよいことがわかります。(「食と健康、栄養に関する調査」発行：株式会社リンクアンドコミュニケーション より引用)

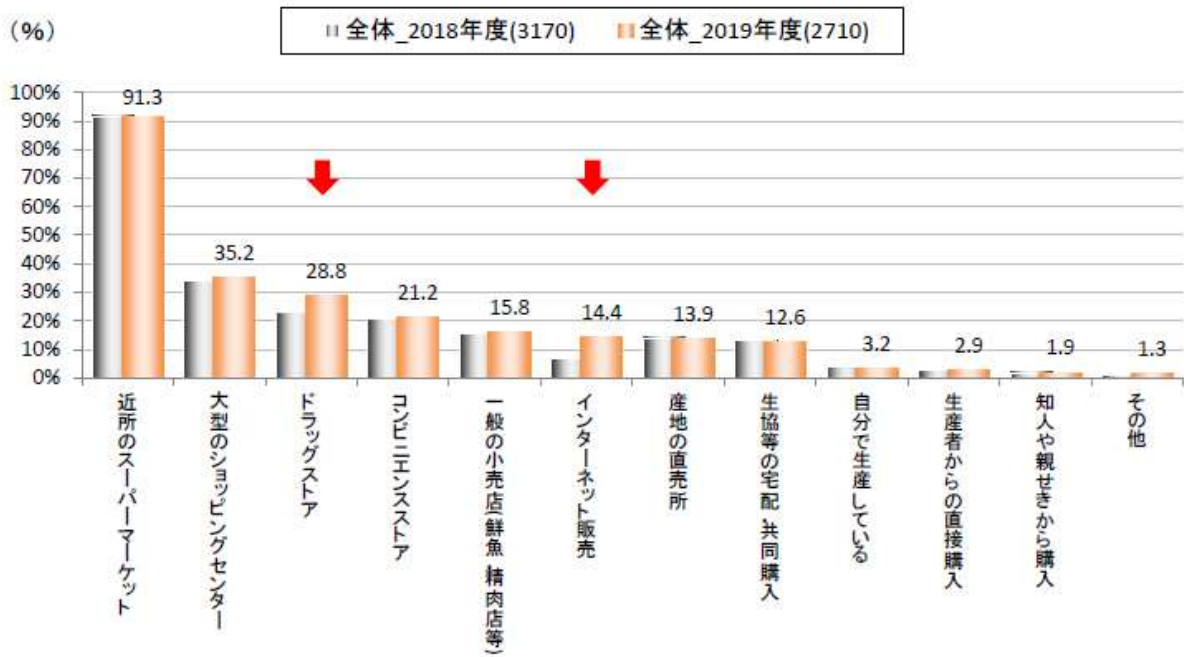
ちなみに持ち帰り弁当専門店では、食べ終わった空ケース類はお店に持って行けば回収してくれます。「ほっかほっか亭」「ほっともっと」「すき家」「吉野家」等。ハンバーガーチェーン店も同様です。

● 店頭回収が有効な製品

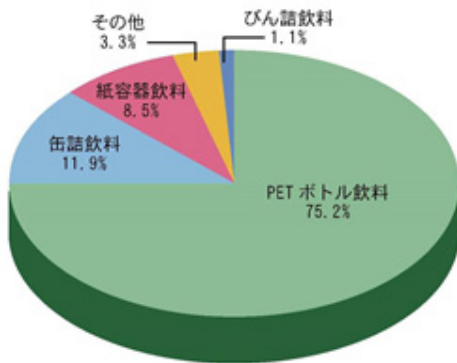
食材購入先としてトップだったスーパーマーケットの店頭回収ボックスの管理状態を見ていると、食品トレイ(白色、透明)とペットボトルはすぐにいっぱいになり、回収頻度が高いのがわかります。回収車はほぼ毎日来ていますが、荷台はこの二種類が多くスペースを占めています。

清涼飲料水に限れば店頭回収ではペットボトルの占める割合が大きいです。図2は清涼飲料水容器別の生産量のグラフですがペットボトルが75.2%を占めています。(図2)

【図1】 2019年度食材購入先「食品の販売業者の種類」

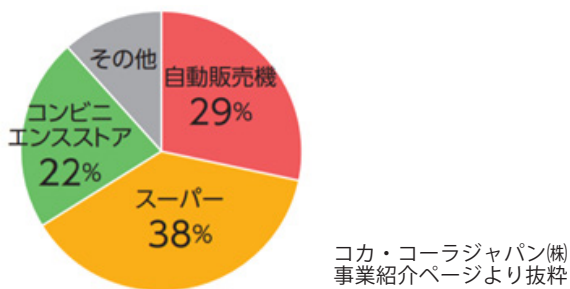


【図2】 清涼飲料容器別生産量（シェア 2019年）



引用：全国清涼飲料連合会 統計 2019年容器別シェア（生産量ベース）

下は清涼飲料容器の販売先ですが、スーパー38%、自販機29%、コンビニ22%で食材購入先のグラフとも傾向は一致します。



● ペットボトルの店頭回収

店頭に設置されたペットボトル自動回収機は、直接粉砕圧縮しフレーク状にしてフレコンバッグに自動収納

されるので、運送コストを大幅に削減し、ペレット化してボトル原型品の熔融成形品を作る工場へ、あるいは再生レジン（樹脂）工場へ搬入されてリサイクル品に加工されます。製造工程の削減、再生材利用で石油製品の削減効果大です。CO₂削減効果は25%あります。

● 発泡スチロールの店頭回収

1990年より一般社団法人日本プラスチック食品容器工業会の依頼で、エフピコが発泡スチロールトレイの店頭回収を最初に展開しました。

また都内卸売市場の一部では、廃棄物処理部が発泡スチロールの処理装置を導入して、熔融・固化したインゴットを専門業者に売却しています。そのためスーパーマーケットや大型ショッピングセンター等では卸売市場からの納品帰りに店頭回収した発泡トレイも持ち帰ってもらっています。

発泡スチロールトレイはプラスチックの中でも分別が容易であり、低エネルギーでのリサイクルが可能のため安定した店頭回収が持続しています。

食品トレイの最大手となったエフピコでは80%が再生品（トレイ toトレイ、ボトル toトレイ）です。使用済みトレイの回収率は30%とのこと。

参考資料

- セブンアンドアイホールディングスのHP
- 協栄産業(株)HP
- 遠東石塚グリーンペット株式会社HP